

# 地域連携 News

Japanese Red Cross Otsu Hospital

2022  
5  
vol.10



【高度救命救急センター長・救急科部長】

救急科  
しもと まなぶ  
下戸 学



## 高度救命救急センター長・救急科部長 就任ご挨拶

3月末まで京大病院初期診療・救急科の講師で、4月1日から松原前部長の後任として着任いたしました。下戸 学(しもと まなぶ)と申します。若輩者ではございますが、これからは地域の先生方のお力をお借りしながら、地域医療の最後の砦を運営して参りたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、簡単に自己紹介させていただきます。私は2005年に神戸大学を卒業し、救急医としては関西医科大学高度救命救急センターで重症救急の、京都医療センターで2次・3次救急の修練を積みました。2011年に京都大学大学院(再生医科学研究所長澤研)に入学し、造血幹細胞ニッチに関する研究成果をBlood誌にアクセプトされ、京都大学博士を取得しました。2015年からは京大病院の救急搬送受け入れの急拡大(2014年2,546台→2019年6,097台)に貢献しつつ、研修医教育でコアとなる救急部門における教育システムを一から構築しました。また多職種・多機関と連携して研究し、災害時に地域医療機能を継続するための体制構築に取り組んでいました。

大学時代にはヨット部に所属して西医体で優勝し、琵琶湖での帆走歴もあります。大学院時代にはトライアスロンを嗜み、フルマラソンを完走しました。海外活動歴としてはブータン王国での

救急医療教育支援(2015年)があり、週末にはヒマラヤ山脈の5,000m級の高度でトレッキングを楽しみました。協調を旨としつつ、やるからには徹底的にやる性格です。

当院は滋賀県唯一の高度救命救急センターかつ基幹災害拠点病院です。平時においても災害時においても地域医療の最後の砦となる使命があります。しかしながら病院単独のキャパシティには限度があり、それを超えてしまうと救える命も救えなくなってまいります。地域医療機能を継続するために、地域の先生方や、医療機関、消防、企業、行政、学校の方々と緊密な関係を構築することが重要だと考えております。地域住民の健康を守るために、今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

### プロフィール

卒 年：平成 17 年 (神戸大学)

専門資格：臨床研修指導医

日本 DMAT 隊員

総括 DMAT

日本救急医学会救急科専門医

京都大学医学部臨床准教授



 日本赤十字社 大津赤十字病院 地域医療連携課

〒520-8511 滋賀県大津市長等一丁目1番35号

TEL.077-522-8535(直通) FAX.077-522-4385(直通)

予約受付 月曜日から金曜日(平日) 午前8時30分から午後8時00分まで  
土曜日 午前9時00分から午後1時00分まで

QRコードからホームページが  
ご覧いただけます

<https://www.otsu.jrc.or.jp/>

